

紅葉の美しい季節に開かれる  
けやき並木の古本市

福岡城ゆかりの地として栄えたけやき通りは、その名のとおり、けやき並木が美しい、福岡でも有数の散策路です。東西約1kmのこの通りは「新・街路樹百景」「福岡都市景観賞」などに選ばれ、広く市民に愛されてきました。

この通りで、2年前から「一箱古本市」というイベントが行われています。東京の「不忍ブックストリート」というイベントを手本に、福岡を本の街にすべく、編集者、書店員などの有志が立ち上げた、「BOOKUOKA(ブックオカ)」のメイン企画。素人が持ち寄った古本を、けやき通りの店舗の軒先で販売するイベントです。

ブックオカ実行委員長の大井 実さんも、けやき通りに面する書店の店主。センスある品揃えを持つ「街の本屋」を開こうと思ったのは、以前暮したイタリアの街の体験からきています。

「イタリアは小さな個人店主が多く、どの店もショーウィンドウなどで自分達の特色を出しています。どこの街を見ても同じ日本とは違って、個性的な店の集まりが雰囲気のある街を形成しているんです」と大井さん。

店を構えて7年、最近、個性的で（大井さんの言葉を借りると）“独立系”の店主とのつながりができ、彼らと地域のために何かできないかと考えることが多くなったそう。

「コミュニティには、“ハレとケ”じゃないけれど、震えるようなイベント体験が必要だと思います。それに異世代間で交流できる場づくりを意識してやっていかないと、都会はどんどん寒々しくなっちゃう。コミュニティが崩壊している今だからこそ、地域の大切さを実感しています」と大井さんは話します。



大井 実さん。毎日手を入れて「耕した」書棚の前で。

### いい街の条件は個性的な本屋とおいしい珈琲

20年前からけやき通りで喫茶店を営む平田隆文さんも“独立系”オーナーの一人。フランスの民家をイメージした店内で開かれるミニコンサートやライブも評判です。

「いい街の条件は、個性的な本屋とおいしいコーヒーが飲める喫茶店」という平田さん。今や文化の話ができる店主のつながりが生まれて来たとうれしそうです。

「繁華街からも程良い距離を保つこの地域は、一階に店舗のある住宅が多いところ。生活とともにある街だからこそ、住民と共に生きていく覚悟で街について考えていきたい」と平田さんは言います。

第二回

# 福岡街とアート

## けやき通り

街とアートのいい関係を探ります

□ □ □



けやきの通りが続く並木道



コーヒー講座講師を務める平田隆文さん



通りの7店舗でアート作品を展示する森田俊一郎さん

### ギャラリーのような空気を街に

ギャラリーを構えて20年の森田俊一郎さんは、日常生活の中で文化を感じる体験は、社会を潤わせる源になると考えます。11月に、けやき通りの7店舗と共同で、店舗にアート作品

を展示する予定です（「夢記-ゆめのしるし-其の後」展）。

「これからの場にとって、絵があるという存在感、作品から発せられるアーティストのメッセージなどアートの果たす役割は大きいはずですが、もしかしら訪れる人は作品に気づかないかもしれないけれど、アートの気配が感じられる場では、その空間が街を育て、地域の人を育てることにつながるのではないのでしょうか。だからこそ、アートと人との巡り合う空間を、街の中に1つ1つ生み出していければと思います」と森田さんは話します。

店主同士がつながることで、文化的で刺激ある街にしていけたらと、今、「けやき通り文化通信」というホームページも準備中だそうです。

これからの紅葉の季節、まずは古本市から参加してみても？

\*ハレ(晴れ)＝儀式や祭などの「非日常」、ケ(曇)＝普段の生活である「日常」を表す。



昨年の一箱古本市の様子  
提供：ブックオカ実行委員会

□ □ □

BOOKUOKA2008 11/1(田)～30(田) 一箱古本市は11/8(田)  
HP: <http://www.bookuoka.com/>  
○財団とのタイアップ企画トークイベントも予定しています(P10参照)。

「夢記-ゆめのしるし-其の後」11/22(田)～12/26(金)  
GALLERY MORYTA + 7PLACE HP: <http://www.g-morita.com/>